

埼玉県国語教育研究発表大会

小学校分科会 資料

熊谷市立熊谷西小学校

小谷野 美穂

宮本 薫純

生きてはたらく言葉の力を育む研究 ～国語科を中心とした授業改善を通して～

熊谷市立熊谷西小学校 小谷野 美穂 宮本 薫純

1 研究概要

(1) 設定理由

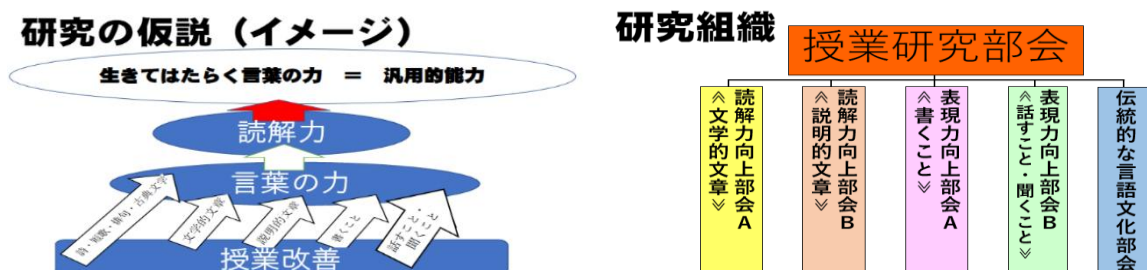
これからの時代を生きる子どもたちにとって、文章を読み、情報を整理・選択し、課題を解決する力は不可欠である。全ての学力の基盤となる読解力や表現力、語彙力などの資質能力を身に付けさせることが求められる。それらの資質能力を「言葉の力」と捉え、「単純に語彙力だけに留まらない、知識としての言葉を『読む・書く・話す・聞く』で活用できる力」と定義した。

本校では、校長講話や行事の感想を書く「チャレンジ意見文」の取組や、授業の終わりに自分の言葉でまとめを書く取組を通して、児童の「書く力」の育成に取り組んできた。しかし、全国および県の学力・学習状況調査の結果から、自分の言葉を言語化することに課題を抱える児童が多い現状が明らかとなった。その要因としては、読解力や語彙力などの「言葉の力」が不足していると考えられる。

児童に「言葉の力」を身に付けさせるには、教師自身が授業力を高め、言葉を通して深く考え、伝え合う授業をつくっていく必要がある。そこで、全ての教科に通じる国語科の授業改善を土台とすることで、児童とともに教師も学び続け、「言葉の力」を育むことができると考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究仮説

全ての学力の基盤である言葉の力※を高めることに視点をあてた国語科の授業改善に取り組むことで、読解力が高まり、児童の汎用的な学力が向上するであろう。



全職員で国語科の授業改善に取り組むことで、本研究主題に迫ることができると考え、全職員が「授業研究部会」に所属し、5部会に分かれた。今回の実践は、読解力向上部会A（文学的文章）での取り組みである。

2 本実践への手立て

(1) 児童の実態

物語教材の授業を行ったクラスに事前のアンケートを実施した。右図の結果から、低学年は物語文を好きな児童がほとんどだが、学年が上がるにつれて、物語文が好きな児童が減っている傾向にあることが分かった。

また、「好き・どちらかといえば好き」と回答した児童の理由の中に、物語文が好きな理由として、「登場人物の気持ちの移り変わりがいろいろあるから」や「物語は、急に話が展開することがあって面白いから」など、物語の「変化」について書いてあるものがあった。このことから、キーワードを「物語文のおもしろさがわかる力」とし、その手段の一つに、『変化』があるのではないかと考え、仮説を設定した。

事前のアンケートから（本日、授業を行った学級）

・「物語文は好きですか」という質問に対して
1年生89%の児童が「好き・どちらかといえば好き」
2年生92%の児童が「好き・どちらかといえば好き」
4年生76%の児童が「好き・どちらかといえば好き」
6年生55%の児童が「好き・どちらかといえば好き」

(2) 読解力向上部会 A 仮説

物語の『変化』に気付くことができれば、物語を面白いと感じる児童が育ち、生活の中で読書に親しむ児童が増えるであろう。

(3) 手立て

【手立て1】変化の8つの視点に着目させながら、登場人物の心情の変化に気付かせる。

物語文の教材を分析し、『変化』の視点となるものを〈時、場所、行動、数、心情、セリフ、様子、関係〉の8つに絞った。この視点を取り入れ、低学年用と高学年用に分けて『変化シート』を作成し、各学年の物語文の学習で活用した。実際には、学年の実態や物語文の特徴に合わせて、活用方法を変えながら授業に取り入れた。

物語の「変化」ポイント

時(時間、年月、日にち、朝、昼、夜など)
場所
行動(登場人物の動きなど)
数
心情(登場人物の気持ちを表している言葉など)
セリフ(口調の変化など)
様子(景色、服装、目で見えるものなど)
関係(仲の良さ、信頼感、立場など)

へんかのポイント

こうどう	かず	ばしよ	とき
行動(動き)	数	場所	時
かんけい	ようす	せりふ	きもち
関係	様子	セリフ	心情

行動	数	場所	時
関係	様子	セリフ	心情

変化の8つの視点

変化シート(低学年)

変化シート(高学年)

【手立て2】共通の並行読書で、変化を伝えたり、比べ合ったりすることで物語の面白さに気付かせる。

「変化ポイント」や変化の見つけ方など、授業で学んだことを生かして読書に親しめるよう、手立てを講じた。並行読書の本については、同じ作者で集めたり、ジャンルを揃えたりするなど、単元で学んだ内容に合わせて選定した。低学年では、並行読書をして見つけた変化を確認しながら、全体で感想を伝え合う時間を取り入れたり、高学年では、自分が選んだ物語の書評を書くという言語活動と並行読書を関連づけたりするなど、学年や児童の実態に合わせながら、物語の面白さに気付かせる取り組みを行った。

○第2学年 場面の様子や登場人物の行動に気をつけて読もう「アレクサンダとぜんまいねずみ」(小谷野)

1 単元目標

- (1) 言葉には、事物を表す働きがあることに気付き、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて工夫して音読している。(知識及び技能(1)ア)
- (2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(思考力、判断力、表現力等C(1)イ)
- (3) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(思考力、判断力、表現力等C(1)エ)
- (4) 進んで登場人物の変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って文章にまとめている。(学びに向かう力、人間性等)

2 本単元における言語活動

読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする。
(関連：言語活動例イ)

3 単元計画(全12時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価・評価方法
1	○あらすじをまとめて身近な人に紹介するという単元のゴールを知る。	○物語の紹介の仕方	主体的に学習に取り組む態度① ワークシート・取り組む様子


	○教材文「アレクサンダとぜんまいねずみ」を読み、初発の感想をもつ。			
2	○物語の中で変化したものを変化の視点に沿って考える。【手立て1】		○変化の読み取り方	思考・判断・表現② ワークシート・取り組む様子
3 4	○登場人物や主なできごと、誰の台詞かを考える。		○できごとのまとめ方	思考・判断・表現② ワークシート・取り組む様子
5	○登場人物の人物像を整理する。	並行読書【手立て2】	○人物像の読み取り方	思考・判断・表現② ワークシート・取り組む様子
6 7 8	○アレクサンダがウイリーをどのように思っているのかを読み取る。【手立て1】		○叙述をもとにした関係の読み取り方	知識・技能① 思考・判断・表現② ワークシート・取り組む様子
⑨ 本時	○アレクサンダが願いを変えた理由を読み取る。		○叙述をもとにした変化の読み取り方	思考・判断・表現② ワークシート・取り組む様子
1 0 1 1	○作品のおもしろさが伝わる絵をかき、その絵の理由を書く。 ○あらすじをまとめ、紹介する文を書く。		○あらすじのまとめ方	知識・技能① 思考・判断・表現① 主体的に学習に取り組む態度① ワークシート・取り組む様子
1 2	○紹介文を読み合い、よいところを伝え合う。		○自分の思いや考えの伝え合い方	主体的に学習に取り組む態度① ワークシート・取り組む様子

4 本時の学習指導（9／12時）

（1）目標

○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。〈思考力・判断力・表現力等〉（1）カ

（2）展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点（配慮・手立て） ◎評価 ☆学校研究主題との関連
1 前時の学習を振り返り、 本時の課題を確認する。	【手立て1】 	○物語全体の流れが一目で確認できるように、 気持ちメーターを掲示する。 ○心情の変化を明確にするために、登場人物の 台詞や行動、気持ちなどの叙述から、「ぜん まいねずみにになりたい」というアレクサンダ の気持ちを想起させる。
なぜ、アレクサンダはねがいをかえたのだろうか。		
2 （六）の場面を一斉音読す る。 P. 133 L. 9～P. 137		○アレクサンダの願いが変わった理由を考え ながら読むよう指示する。
3 とかげに願いを伝える場 面を読み取る。	○押さえる表現 ・むねをどきどきさせて、 ・大事な小石をしっかりとうで にだき、 ・まんげつだった。	○叙述から小石を胸に走っていく様子を捉え、 絶対に願い事を叶えたいというアレクサン ダの強い思いを読み取らせる。 ○P. 132・133との挿絵の違いも押さえ させる。
4 「ぼくは……」の「……」 では、何を言おうとしてい たのかを考えてワークシ ートに書く。	・いきをきらして ・大いそぎで、	○ワークシートの吹き出しに、「ぼくは……」 と言いかけて、アレクサンダが考えたこと を書かせる。 ☆アレクサンダとウイリーの行動や気持ち、台 詞の変化をもとに考えることを伝える。

<p>〈期待される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは……ぼくがここでぜんまいねずみになったら、ウイリーはどうなる…。そうだ。ウイリーをぼくみたいなふつうのねずみにしてあげれば、ウイリーも助かるし、ぼくもずっと一緒にいられてうれしい。 ・ぼくは……待てよ。ウイリーを助けなきゃ。だって、ウイリーは、大切な友だちなんだ！いなくなるなんていやだ！よし、ウイリーをぼくみたいなねずみにかえてあげよう！ 	<p>○ワークシートの内容を全体に共有し、良い文章は、全体で読む。</p> <p>○友達の意見を聞いて、似ているところや違いを見つけながら伝え合うよう指導する。また相手の意見を聞き、必要であれば書き加えるよう伝える。</p>
<p>5 なぜ、アレクサンダは願いを変えたのか叙述や気持ちメーターをもとに考えて書く。</p> <p>・個人→グループ→全体</p>	<p>☆登場人物の台詞や気持ちなどの叙述から、アレクサンダの変化を考えさせる。</p> <p>☆気持ちメーターを使い、どの程度変化しているのかを視覚的に表させる。</p> <p>○グループでの交流により、同じ意見との交流や異なる意見との交流を通して、他者の考えに触れることで、考えを深められるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◎評価規準 【思考・判断・表現②】</p> <p>〈評価方法〉 ワークシート・取り組む様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの叙述から、アレクサンダの願いがなぜ変わったのか、理由を考えている児童をBとする。 〈「努力を要する」状況（C）への手立て〉 ・これまで学習した掲示物やノートをもとに考えが書けるよう助言する。 </div>
<p>〈期待される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は、ぜんまいねずみになりたいという願いだったが、ためいきまじりに、「ごみばこ行きさ」と言ったウイリーを思い出して、大好きな友だちだから、助けたいと思い、願いを変えた。 ・最初は、ぜんまいねずみになりたいという願いだったが、「アレクサンダは、なかんばかり」と書いてあるから、今にも泣きそうなくらい心配をしていて、ウイリーを思い出し、願いを変えた。 	
<p>6 学習のまとめをする。</p>	
<p>〈予想される児童のまとめ〉</p> <p>アレクサンダは、はじめは、ぜんまいねずみになりたいと思っていたが、ウイリーがすてられているところを見て、たすけてあげたい思いがつよくなったので、ねがいをかえた。</p>	
<p>7 まとめの音読をする。</p>	
<p>8 学習の振り返りをする。</p>	<p>○授業の始めに読んだ時との違いを意識させる。</p> <p>○あらすじと心に残ったところをまとめ、お話を紹介し合う学習をすることを伝え、次時への意欲付けをする。</p>
<p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレクサンダやウイリーの様子や気もちやせりふにちゅう目して読むと、アレクサンダの気もちがかわったことがわかった。 	

○第1学年 ばめんのようすを くらべてよう 「スイミー」(宮本)

1 単元目標

- (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 (知識及び技能 (3) エ)
- (2) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 (知識及び技能 (1) ク)
- (3) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (思考力、判断力、表現力等 C (1) エ)
- (4) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 (思考力、判断力、表現力等 C (1) カ)
- (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

2 本単元における言語活動

読み聞かせを聞いたり、物語を読んだりして、内容や感想を伝え合ったり、演じたりする。

(関連：C 言語活動例 (2) イ)

3 単元計画（全9時間扱い）

時	主な学習活動		学習内容	評価・評価方法
1	○心に残った場面を伝え合うという単元のゴールを知る。 ○「スイミー」を読み、初発の感想をもつ。		○レオ＝レオニの作品を知ること	主体的に学習に取り組む態度① 知識・技能① <u>観察</u>
2	○「スイミー」を読み、場面や登場人物の行動を確かめる。	並行読書【手立て2】	○場面や登場人物の行動の整理の仕方	知識・技能② <u>観察</u>
3 4 5 6	○それぞれの場面の様子を読み取る。【手立て1】		○叙述をもとにした場面の読み取り方 ○表現方法とその効果	思考・判断・表現① <u>観察・ワークシート</u>
⑦ 本時	○スイミーの考えた作戦のすごさを読み取る。【手立て1】		○叙述をもとにした変化の読み取り方 ○叙述をもとに想像しながら読むこと	思考・判断・表現① <u>観察・ワークシート</u>
8 9	○心に残ったところを選び、自分の考えをまとめる。 ○心に残ったところを伝え合う。		○友達の考えからお話の良さに気付くこと	主体的に学習に取り組む態度① <u>観察</u> 思考・判断・表現② <u>発言・ワークシート</u>

4 本時の学習計画（7／9時）

（1）目標

○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〈思考力・判断力・表現力等〉C(1)エ

（2）展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点(配慮・手立て)◎評価 ☆学校研究主題との関連
1 前時の学習を振り返る。		・○スイミーが小さな魚の兄弟たちを見つけ、行動や気持ちが変化したことを確認する ☆今までの場面と変わるところがあるかどうかを考えながら読ませる。
2 (五)(六)の場面を音読する。 ・一斉音読		
3 今までの場面と本時の場面では何か変化したことがあるか話し合う。 【手立て1】	○叙述をもとに場面の様子を想像すること ・まぐろから逃げる→追い出す ・ひとりぼっちで泳ぐ→みんなで一緒に泳ぐ ・暗い海の底→朝の冷たい水の中、昼のかがやく光の中 ○変化に着目した読み方	☆“みんなで一緒に泳ぐ”“大きな魚を追い出した”という行動の変化を捉えさせる。 ☆“海の情景が明るくなっている”という場所の変化に気付かせる。
4 本時の課題を確認する。		
	スイミーがかんがえたさくせんのすごさをよみとろう。	
5 大きな魚を追い出したスイミーの作戦を想像する。 (1) スイミーの作戦や考えをワークシートにまとめる。 (2) 全体で話し合う。	○スイミーの作戦の素晴らしさ	○一つ一つの言葉を丁寧に確認し、想像させることで、スイミーの考えの素晴らしさに気付かせる。 ○「なぜ大きな魚のふりをするのか」「もちばを守ることがなぜ大事なのか」「スイミー

<p>〈作戦〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うみでいちばん大きなさかなのふりをして、みんないっしょにおよぐこと <p>〈考え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けっしてはなればなれにならないこと ・みんな、もちばをまもること ・ぼくが、目になろう 		<p>はなぜ目になろうと思ったのか」などを発問し、想像を広げさせる。</p> <p>○魚を追いつことができたのは、スイミーの作戦の素晴らしさであり、スイミーの勇気ある行動を感じさせる。</p>
<p>6 スイミーに話しかけてみる。</p> <p>(1) 一人で考える。</p>		<p>○読者の立場から、スイミーに会った時、どんな言葉をかけてあげるかを想像させる。</p>
<p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーすごいね。よくあんなにいい作戦を思い付いたね。 		<p>○評価規準【思考・判断・表現】</p> <p>〈評価方法〉ワークシート・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーの行動や場面の様子をもとにして、スイミーのすごさに気付いている児童を B とする。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・スイミーの行動が分かる叙述を教師が提示し、すごさがわかるように助言する。 <p>○学習したスイミーたちの行動や考えを想像しながら読ませる。</p> <p>○振り返ったことを数名の児童に発表させ、全体に広げる。</p>
<p>7 まとめの音読をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉音読 <p>8 本時を振り返る。</p>	<p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化を見つけることで、スイミーの作戦のすごさに気付くことができました。 	

3 成果と課題

【手立て1】変化の8つの視点に着目させながら、登場人物の心情の変化に気付かせる。

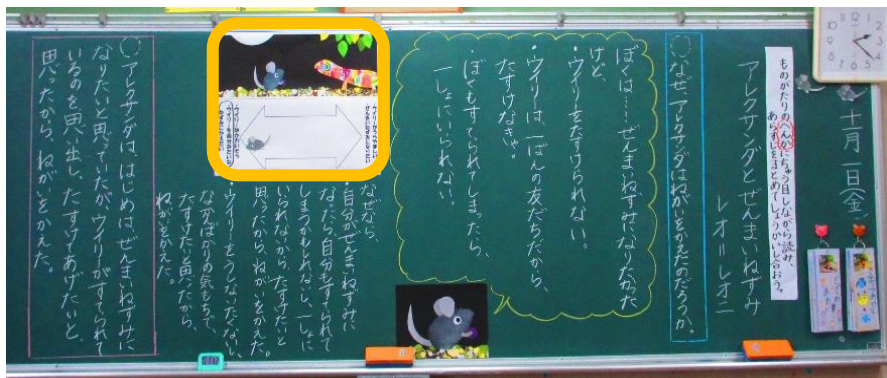
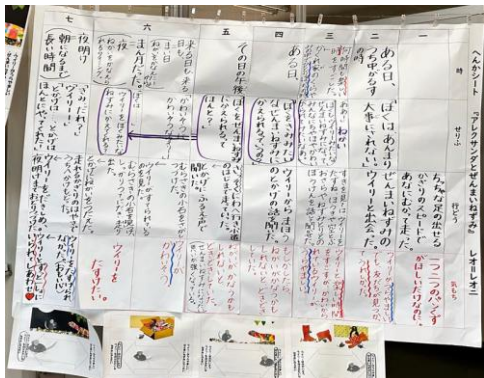
《アレクサンダとぜんまいねずみ》

※ 変化ポイントを「時・台詞・行動・心情」の4つに絞り、変化シートを作成。

- ・個人で変化を探して記入し、共有して一枚にまとめた変化シートと気持ちメーターを教室前方に掲示し、いつでも振り返れるようにしたことで、既習事項をスムーズに確認することができた。
- ・場面ごとに、気持ちメーターに心情を書き入れる活動を取り入れることで、視覚的に心情を整理でき、前時から変化したところを見つける手助けになっていた。
- ・単元を通して、変化シートと気持ちメーターを使用したことで、本時では多くの児童がアレクサンダの願いの変化を自力で叙述から読み取ることができていた。
- ・前単元から同様の手法を用いたことで、気持ちの変化に気づくだけでなく、根拠を明らかにして自分の考えをまとめることができる児童が増えた。

「なぜなら、自分がぜんまいねずみになったら、自分もすてられてしまうかもしれないし、いっしょにいられないかもしれない。たすけたいと思ったから願いを変えた。」

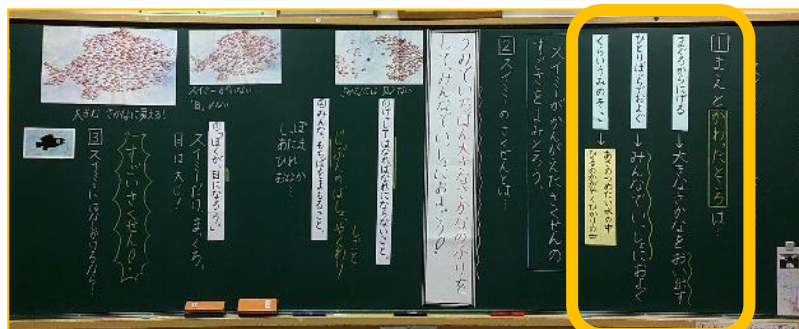
「なぜなら、ウイリーをうしないたくない、なかんばかりの気持ちでたすけたいと思ったから、願いを変えた。」



《スイミー》

※ 変化ポイントを「行動・気持ち・様子・場所」の4つに絞り、変化シートを作成。

- ・変化シートを全体で共有しながら一枚にまとめたことで、個別で考える場面でも、児童は変化に着目する視点をもって物語文を読むことができていた。
- ・変化シートは教室前方に掲示し、児童がいつでも見て振り返れるようにすることで、第2場面と第5・6場面を比べて、スイミーの様子の変化を自分たちで発見することができていた。
- ・物語の冒頭で変化を押さえておくことで、「なぜスイミーが大きな魚を追い出すことができたのか」という問いに自然とつながり、作戦のすごさに気付く思考の流れを作ることができた。
- ・1年生では、行動・様子・場所などの大きな変化（叙述+挿絵）を先に読み取ることで、心情の変化にも注目しやすくなり、児童も考えやすくなっていた。



【手立て2】共通の並行読書で、変化を伝えたり、比べ合ったりすることで物語の面白さに気付かせる。

- ・同じ作者であるレオ＝レオニの作品を並行読書に取り入れたことで、表現方法の共通点などに気づくことができた。
- ・レオ＝レオニの作品は主人公が動物であることが多く、挿絵も色彩豊かに描かれているため、児童が物語の世界に入り込みやすく、実際に休み時間には、数人が集まって1冊の本を読む姿が見られた。
- ・読書中には、児童同士が気づいたことや思ったことを伝え合う様子が見え、物語を楽しむ素地が育った。
- ・授業で学んだ「変化の視点」を意識しながら読む児童も多く、「〇〇が変わっていた」「いろいろあったけど、最後まで特に主人公は変わらなかったよ」などと、自分の気づきを言葉にして伝える姿が見られた。



《スイミー》の並行読書

【全体の成果と課題】

○4年生、6年生でも同様の実践を行った。アンケートから、どの学年も「物語文が好き・少し好き」な児童が増え、『変化』に着目した授業改善が効果的であったことが分かった。

○高学年児童の理由から、自分で『変化』に気づけることで、物語文を面白いと感じたり、好きになったりする児童がいた。

「読むのが嫌いだったが、授業で変化に気づくことができたから」
(少し嫌い→少し好き)

「心情が変化していくところが面白かったから」(少し好き→好き)

△変化シートは、部会で検討を重ねて今回の発表までに改善してきたが、より変化の移り変わりが分かるようなシートの形式を考えていきたい。

△8つの変化の視点や教材に合わせた選定・改善が適切かを考える必要がある。

「物語文が好き・少し好き」と回答した児童の割合

